

編集後記

本号を刊行するに当り、論文の中でとりわけ注目されるのは、編集委員会の方で依頼した原稿もさることながら、投稿原稿の分野が多岐にわたり、それぞれがレベルの高さを保っていることである。大学院教育学研究科が発足したこと、本学会の研究部会が着実な活動成果を収めていること等が良い刺激となつてこうした方面にも波及しているとも考えられる。しかし、その根底には各執筆者のそれぞれの現場における真摯な取り組みがある。このことを抜きにしては、こうした投稿論文の増加現象を語れない。

詩人と農民と教師は、生命を正しく健やかに育てる誇るべき職業だといわれている。六〇年代の若者の夢は、科学者・技術者になつて科学技術の発展に自ら貢献することにあつた。七〇年代の若者の夢と憧れの的は、環境保全と貧困の撲滅、差別の撤廃等の「公共的」な目標の実現へと移行し、その結果、はやりの職業は、科学者・技術者から医者・弁護士へと移り変つたといわれている。そして九〇年代こそは、二十一世紀にむけて、次の世代の生命を正しく健やかに育てるための使命を負つた教師の時代なのである。こうした原点を踏まえながら、例会での発表希望者や本誌への投稿者が増加しているという現象は大いに歓迎すべき現象であると思う。

(瓜生鐵二)

早稲田大学国語教育研究 第十一集

一九九一年六月一日 発行

発行所

早稲田大学国語教育学会

代表 紅野 敏 郎

東京都新宿区西早稲田一六六一

早稲田大学教育学部内

振替 東京六八五二七番

印刷所

早稲田大学印刷所

東京都新宿区戸塚町一〇三